



堀り出し物 目録作成や展示会を
宮崎 幸雄さん（水道町・図書館長・62歳）

白根小学校に、わが郷土白根出身の日本一の漆版画家である入山白翁（本名平太郎）の作品が飾られています。一つは昔の富戸橋と大きな柳の木、中ノ口川の構図の漆絵です。もう一つは「すすき富士」という漆版画です。この「すすき富士」は中国の故周恩来首相に贈ったものと同じ作品です。また、昔の飛行機の木製のプ

ロペラに、山本五十六の書で「龍蛟躍四溟」と彫ったものがあります。そして、五十六の実父である高野貞吉の書「思無邪」の額もあります。さらに本県出身の市島春城の「名著大作」の名筆もあります。同時に書いたと思われる「披雲尋道」の書は白根図書館に飾られています。白根小学校には、このほかにも多くの有名な人の書画などが残されています。このように白根小学校だけで

市民談話室

原稿募集
7月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係（☎373-2111③333）です。



大通地区「遊びの教室」で

も貴重な作品が残されているのですから、白根市の公共の施設にはもっと多くの堀り出し物的な作品があるものと思われたい。これらの作品の一覧表を作ったり、展示会をしたらいかがでしょうか。これらは作品として鑑賞するだけではなく、歴史的にもその当時の白根の息吹を伝えてくれるものと思います。なお蛇足ですが、白根市にある指定文化財巡りなども計画されたら市民に喜ばれるのでは無いでしょうか。期待しています。

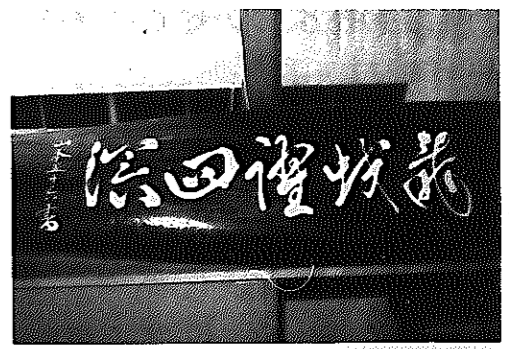


若いお嫁さんに拍手 教えられた心の広さ
田中三三江さん（和泉・主婦・53歳）

私は今、孫の子守に頑張っております。ある日散歩に行き、五、六人の若いお母さんたちと一緒にになりました。そのときの出来事です。

Aさんが「私の間、頭にきた。私が手を上げたこともないのに、お姑さんが子供をたたいたのよ」と興奮した口調で言いました。するとBさんが「そうなの。でもそれは子供が悪いことをして、口で言っても分らないから、たたいたんじゃないの？」と言いい、さらにこう続けました。「あんなにすてきな主人を育ててくれたお姑さんだも

の、孫でも自分の子供と同様に育ててくれるだろうって、私は思うわ。だから子供がたたかれたら、別に頭にくることはないわよ。あなたもご主人が好きで一緒にあったんでしょ？ 反対に感謝しなきゃだめなくらいじゃないの」と涼しげな顔で言いました。それを聞いて、若いのに何て心の広いBさんだろうと思いました。また、何事も相手を責めないで自分を変えるというように、素直な気持ちで受け取らなければいけないのだと、改めて思いました。



市民文芸
俳句
頬被りゆるめて懸ふ撤下し 木村 トリ
初蝶の飛んで京にも田舎あり 成沢 素明
窓の雪振りて卒業式用意 公條 雪夫
木の葉髪梳らねばなほ淋し 猪股 南魚
春宵や口紅つきし小盃 小林 光子
学童の校外写生山笑ふ 豊木サグ子
春愁や祖母亡き部屋の置炬燵 五十嵐寛吾
すれちがふ人の香淡き春の宵 堀内ナナ子
桃の村もものはなてふ学校誌 山田 孝
摘み草の帰りはいつも背負はれて 和泉 伸子
（以上大風会）

短歌
暖かく大空飛来し我が里に 古葉が恋しや夫婦のつげめ 長谷川久二
九州へ種古に行きし孫唄り 薩摩剣士の荒きを語る 小出熊四郎
老いたりて幼き思い出多かりき



「ごみ処理施設建設に思う 農家のごみは自家処理を
泉 博さん（万年・農業・78歳）

本紙二月号で「ごみ処理施設建設」の記事を読ませていただきました。パブル経済など、経済の発展が著しい昨今、文化とごみは比例するともいわれております。わが白根郷においても、それに対応する環境施設を建設することは、時宜を得たものと思われたい。

り知れないものがあります。そこで一つの私案ですが、厨房から出る生ごみについて考えてみたいと思います。衛生センター組合地域の三分の二は農家と思われたい。市街地や団地は別として、農家であれば宅地に空き地があります。空き地に穴を掘ってそこに捨てる。大きめに深く掘ると、自家のごみなら二、三年は大丈夫です。満杯に

なったら埋め戻して、次に掘ればそれで済みます。私の家ではそうしているので、一回たりとも生ごみは出していません。または、たい肥にするのも一考でしょう。

ら、ごみの量は半減するのではないかと考えられます。ごみは出しておけば持つていく。運んでくれるから出す。これではイタチごっこです。自分のごみくらい、自分で処理できないものでしょうか。



リサイクル 生活の中「ちよつとした心掛けを
関根 豊子さん（下茨・主婦・29歳）

リサイクルといっても特別なことをしているわけではありません。ポイッと捨てて、ごみに

しかならないような物でも、洗って乾かせば、子供のおもちゃになります。子供の持つてくる保育園でも、それらを持つてきてもらって使っています。



環境問題を考える 一人ひとりが見守ろう
武田 寅治さん（蔵主・無職・66歳）

近ごろフロンガス、地球温暖化といった言葉で環境問題を取り上げている。今日、生態学思想の発展は何なのかを考えるときに「自然と経済」という見方ははるかに古い時代から存在しているようだ。

世界は基本的には大なる自然に住む生き物の相互依存という状態の有機体として挙げられている。自然とは優れた経済家であって、ミミズが鳥のえきになり、鳥が動物や人間の食料になるというように、あらゆる生物

が一定の生態学的秩序の中で配置されているのではなからうか。世界観に裏付けられた人間中心主義反自然的思想と、それを実践する手段である科学に對抗しようとしているのが現在の実態ではなからうか。

地球環境問題は現代文明への問いかけだともいわれている。極端な言い方をすれば、次世代の生存にもかかわる問題である。だから私たち一人ひとりがしっかりと今後の環境問題を見守っていかなければならないと思う。



白根地区の一部で4月から試験的に始められた資源ごみ回収の日。2か月で5トン回収

川柳
堤に友と逢揃む頃 小出よしの
カーネーションの花東受くる吾と 嫁一ヶの壺に活けて美し 中村 京
煙草屋を曲がると過去の風に触れ 吉川 彰
二次会の財布は別に持つて居る 米野 光雄
ありふれた祝辞を上司から貰う 今井 七郎
産卵の機械にされた鶏の私語 織田 福治
頑固さは自説を曲げぬ亡父の血よ 織田 セツ
無い袖をうっかり振ったクレジツト 後藤マサノ
遭難のへりが飛び交う親不幸 佐藤トミノ
青空に曲がった腰を伸ばす母 佐藤 ヨキ
街中が服キチとなる此の風 高橋祐四雄
蛇行する流れがクツション投をす 竹石 甚五
一本の頼れる杖が見当たらず 田中 成子
切り株の年輪にある遺言書 田村 恒夫
食之ぬ国あるのに美田遊ばせる 中村 尚治
ポケットの小銭まさぐる日の無聊 西条 ムラ
ブレイキを踏む人生の曲がり角 早川 英男
おかわりの茶碗に満ちるものがあ 山岡 フミ